



⑤ 西郷信綱 著

『日本古代文学史』

(岩波書店)

天皇と政治的権力が密接に絡んでいた飛鳥時代、皇位継承をめぐる争いは熾烈でした。そうした謀略の渦に巻き込まれまいとした有馬皇子は狂人まで装いますが、謀反の疑いで中大兄に殺されてしまいます。彼が死を予感しながら詠んだ歌「磐代の浜松が枝を引き結び真幸くあらばまたかへり見む」は、その淡々とした口調ゆえにいっそう胸にせまります。この感傷のない澄み切った悲哀は、まだ貴族化していない初期万葉人のものだと言います。本書は、神話、古事記から物語文学、王朝和歌にいたる日本古代文学の誕生と発展、そして衰退を、社会人類学などの切り口で解明していきます。

910.23-Sai (N.T.)

⑦ 金谷謙、林思雲 著

『中国人と日本人』

(日中出版)

日本と中国の関係はニュースでもよく報道されており、大変高い関心が持たれています。日中の文化の違いをお互いに理解を深める必要があるのではないのでしょうか。

本書では、著者である中国人と日本人による、日中の文化の違いについての意見交換が収録されています。一般論はなるべく避けられており、それぞれの著者の経験に基づいた見解が述べられていますので、一読してみてもいいのではないでしょうか。

319.1022-Kan (N.I.)



⑥ 山本敏晴 著

『アフガニスタンに住む彼女から
あなたへ: 望まれる国際協力の形』

(白水社)

350万人という世界最多の難民を持つ国アフガニスタン。本書には、その地に日本医療救援機構(MeRU)の医師として派遣された著者により、真の国際協力の形とそこで生きる女性たちの姿が描かれています。

現地での活動だけが国際協力だと思っている方も多いかもしれません。しかし、日本にいる私たちにも今すぐに出来る事が沢山あると著者は言います。まずはこの本を開いてそこに住む人たちを知ること、それが「ほんとうに意味のある国際協力」の第一歩となるのではないのでしょうか。

498.02262-Yam (H.T.)

⑧ 池上 彰 著

『そうだったのか! アメリカ』

(集英社)

あなたは、アメリカと聞いてどんなイメージを抱きますか? 世界一の国、独りよがりの国、自由の国、差別の国…アメリカが好きという人もいれば、大嫌いという人もいます。ではアメリカについて何を知っていますか? もしイメージが漠然としたものなら、また誰かの受け売りだしたら、幅広いテーマについて写真などを交えて簡素にまとめてあるこの本を読むことをお勧めします。読み終わったら、あなたが抱いていたイメージが変わるかも知れませんよ。

302.53-Ike (Y.A.)